

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380505

研究課題名(和文) アジア(中国・インド・タイ)におけるサプライヤー・システムの国際比較研究

研究課題名(英文) The study of supplier in Asia (China, India, and Thailand)

研究代表者

山崎 修嗣 (yamazaki, syuji)

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：80239938

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、次の諸点を明らかにしてきた。第一は、日系については、一次部品メーカーのアジアにおける展開については、組立メーカーとの資本関係が基本にあること、第二は、単純に、組立メーカーによる株式所有だけでなく、部品メーカー間でも持合いが進行していること、第三は、こうした事態は、平均的に日本の組立メーカーで進んでいるのではなく、株式所有に積極的なトヨタとホンダとそれ以外のメーカーに分かれていることである。

こうした成果は、山崎修嗣著『日本の自動車サプライヤー・システム』法律文化社(2014年5月)として刊行するとともに、2016年6月の産業学会において報告している。

研究成果の概要(英文)：This study elucidated 3 points. First, Japanese tier 1 suppliers construct factories in Asia based on capital ties with assemblers. Second, suppliers not only have capital relationship with assemblers but also hold shares mutually with other suppliers. Third, TOYOTA and HONDA and their suppliers, which tie capital relationship aggressively, have these features, but other Japanese automobile enterprises do not. I write these outcomes in "Japanese automobile supplier system" (published in 2014), and reported at the Society for Industrial Studies in 2016.

研究分野：産業論・経営学

キーワード：自動車産業 自動車部品産業 サプライヤー・システム

1. 研究開始当初の背景

近年、中国やインドは急速な工業発展に加え、急速なモータリゼーションが進んでいる。それに伴い、各国の自動車メーカーは当該国への生産の現地化を進めている。

ここで問題になるのは、自動車生産に必要な部品を如何なる形で調達しているかという問題である。技術の成熟を要する自動車生産において当該国における自動車部品工業の発達は不十分である。そのため、必然的に、部品調達における国際分業を前提とした自動車生産が必要となる。

上述の問題意識から、本研究は、2007 - 2010 年度において科学研究費補助金・基盤研究(B)の助成を受け、「アジア共同体構想時代における自動車産業のサプライヤー・システムにおける比較研究」(課題番号: 19330084)を行ってきた。このプロジェクトの研究成果は、山崎修嗣編著『中国・日本の自動車サプライヤー・システム』法律文化社(2010年4月)および同『中国の自動車産業』丸善(2010年1月)として刊行している。尚、後者については同『中国自動車産業』中国商業出版社(2010年7月)として中国版で刊行し、中国の自動車研究の専門家と意見交換できる形にしている。

ここで明らかにした中心的論点は、第1に、日系自動車メーカーが中国市場において如何なるかたちで日本的生産システムを維持しているのか、その限界あるいは発展性はどこにあるのかである。とりわけSPS(セット・パーツ・サプライシステム)と順引納入に着目し、中国人ワーカーの技能水準から見た時の同システムの合理性と限界について明らかにしている。

そして第2に、日系自動車メーカーの中国展開に伴い、国内自動車産業が如何なるかたちで再編されているかである。北海道、東北、九州地域を対象として自動車メーカーから見た時の各地域の戦略的位置づけの相違、自動車メーカーの国際化に伴う、同部品メーカーの戦略的対応の実態について明らかにした。

第3に、中国における自動車産業の育成政策の変遷と中国ローカル自動車メーカーのサプライヤー管理の実態を中国ローカル自

動車メーカーの自立性と外資系自動車メーカーへの依存度という観点から明らかにし、中国ローカル自動車メーカーの限界および日系自動車メーカーの優位性について明らかにしてきた。

2. 研究の目的

本研究、「**アジア(中国・インド・タイ)におけるサプライヤー・システムの国際比較研究**」は、世界の生産基地となっているアジア地域における自動車産業のサプライヤー・システムの実態について比較研究することを目的としている。

日本の自動車メーカーの中でも、サプライヤーとの関係は一律ではなく、違いがなぜ発生しているかを明らかにし、従来の研究史を発展させることを目指した。

3. 研究の方法

フォーイン、アイアールシー等のデータ分析とヒアリング調査を行った。特に資本関係の分析を中心に行った。

対象とした自動車メーカーは、トヨタ、ホンダ、日産、マツダである。選択した理由は、近年、サプライヤーの再編を行ったからである。

組立メーカーの所有する株式だけでなく、グループとして、サプライヤー相互間持合いや、二次サプライヤーの株式所有も分析を行った。

特にトヨタが多くのサプライヤーとの関係があるので、分析の重点をおいた。

4. 研究成果

本研究においては、次の諸点を明らかにしてきた。第一は、日系については、一次部品メーカーのアジアにおける展開については、組立メーカーとの資本関係が基本にあること、第二は、単純に、組立メーカーによる株式所有だけでなく、部品メーカー間でも持合いが進行していること、第三は、こうした事態は、平均的に日本の組立メーカーで進んでいるのではなく、株式所有に積極的なトヨタとにホンダとそれ以外のメーカーに分かれていることである。ただホンダの場合は、トヨタに比べると、海外展開と軽自動車に関する限定的な株式所有で、サプライヤーどうしでも持合いの事例は多くない。

こうした成果は、山崎修嗣著『日本の自動

車サプライヤー・システム』法律文化社(2014年5月)として刊行するとともに、2016年6月の産業学会において報告している。

報告においては、次の分析手法でトヨタ自動車のサプライヤー・システムについて分析を進めた。使用したデータは、アイアールシーの『トヨタ自動車グループの実態』である。このデータの1996年版と2014年版の各企業の個表の備考欄から株主をピックアップした。更に、現状の理解に重点をおくため、2014時点から変動を確認できる、1996年の数字に限定をし、出資比率の変動を分析した。特にトヨタグループ16社相互間の出資比率動向を分析とトヨタグループ16社の協豊会への出資比率に重点をおいて考察した。

分析結果は、次のとおりである。まず指摘できるのは、トヨタ自動車によるグループ企業への出資比率の上昇である。具体的には、第一に、最終組立をになうメーカーに対する出資比率の上昇率が高い。第二に、トヨタ自動車以外で、出資比率が上昇した企業は、アイシン精機株式会社、株式会社デンソー、トヨタ紡織株式会社、豊田合成株式会社、株式会社豊田自動織機である。

また、トヨタグループ16社の役割の増加が指摘できる。もちろん、16社が均等に役割をはたしているわけではない。有力な部品メーカーが、16社における持合いでも協豊会への出資でも役割をはたしうることが確認できた。以上の内容については、28年度の産業学会で発表した。

発表の議論の中で、今後の課題として、組立メーカーと部品メーカーの取引関係や人的関連も含めた考察が必要であるとの意見がだされた。こうした点や一次部品メーカーと二次部品メーカーについての取引関係についても今後の課題としたい。

なお、今後も継承していきたい分析視角は、次のものである。マザープラントとしての日本、準マザープラントおよび基幹的部品の生

産・供給拠点としてのタイ、最終市場そして生産拠点、完成車輸出拠点としての中国、インドという位置づけを与えて、日系自動車メーカーのアジア戦略の全体をサプライヤー・システムという観点から分析していくために技術集積度の高いタイを研究の対象とする。また、日系自動車メーカーの対中国、対インド戦略に対して日本国内のサプライヤーが具体的にそれぞれの戦略に対してどう連動しているのかも研究の射程に入れ、自動車メーカー、自動車部品メーカーを含めた日本の自動車産業のアジア戦略という観点からも分析していく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

山崎修嗣、「トヨタグループの動態分析」第54回産業学会全国研究会、2016年6月11日～12日、立命館大学(いばらきキャンパス)

〔図書〕(計1件)

山崎修嗣、法律文化社、『日本の自動車サプライヤー・システム』、2014年、167頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 修嗣 (Yamazaki Syuji)
広島大学・総合科学研究科・准教授
研究者番号：80239938

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()